

倶多楽の火山活動解説資料（平成29年10月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

今期間も大正地獄で熱湯噴出がありました。大正地獄の熱湯噴出は度々みられており、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・地震及び微動の発生状況（図1-②、図3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

25日01時34分頃に日和山の北西約5km付近でマグニチュード2.3（暫定値）の地震が発生し、胆振伊達大滝区本町と登別市鉾山で震度1を観測しました。この地震の発生前後で倶多楽の火山活動に特段の変化は認められませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図1-③）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

今回の火山活動解説資料（平成29年11月分）は平成29年12月8日に発表する予定です。

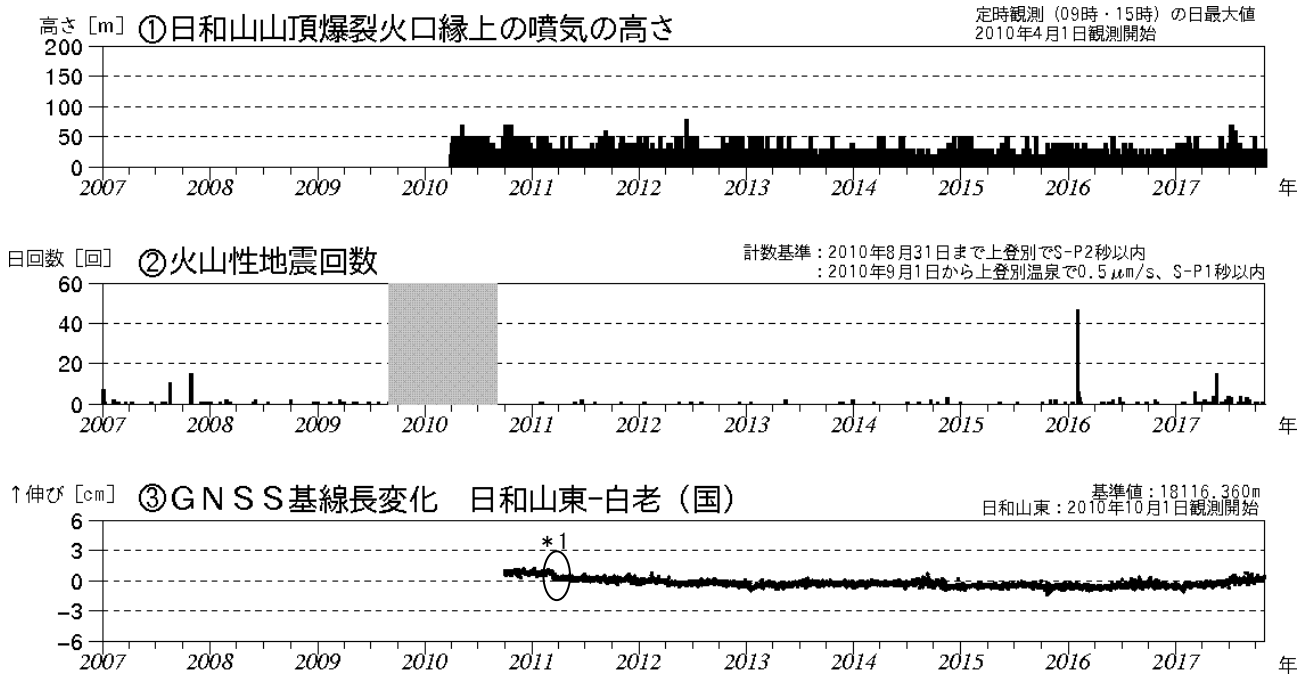
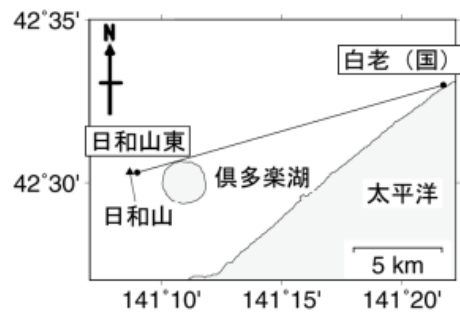


図1 倶多楽 火山活動経過図 (2007年1月~2017年10月)

- ・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します
- ・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・(国): 国土地理院
- * 1: 楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません



GNSS連続観測点配置図



図2 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況 (10月27日、414m山監視カメラによる)

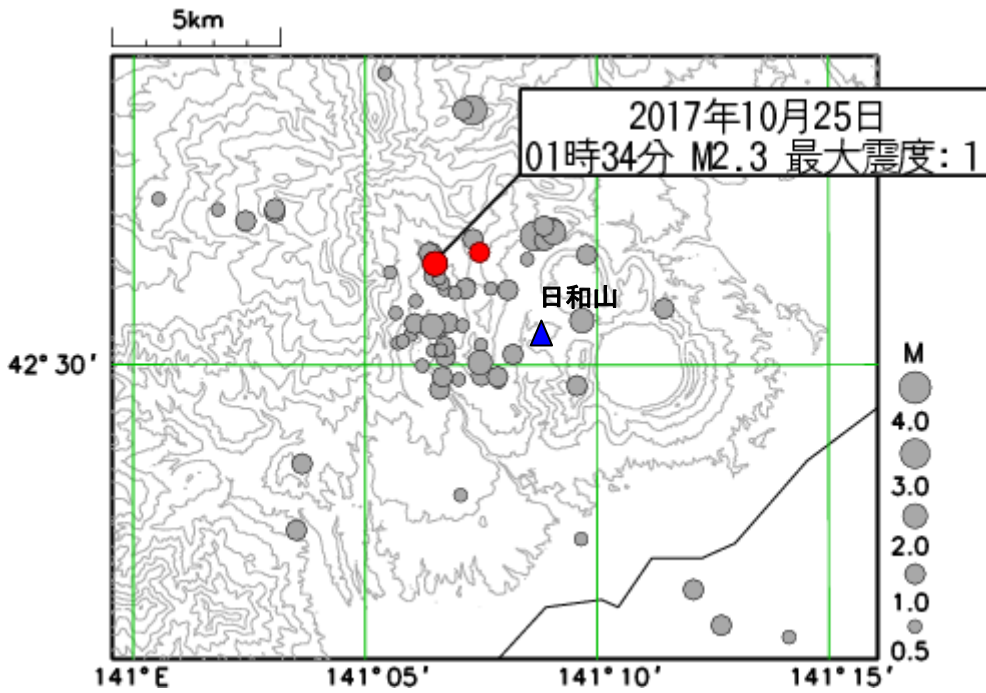


図3 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
 (1997年10月1日~2017年10月31日、マグニチュード ≥ 0.5 、深さ30km以浅)
 ・2017年10月に発生した地震を赤いシンボルで表示しています

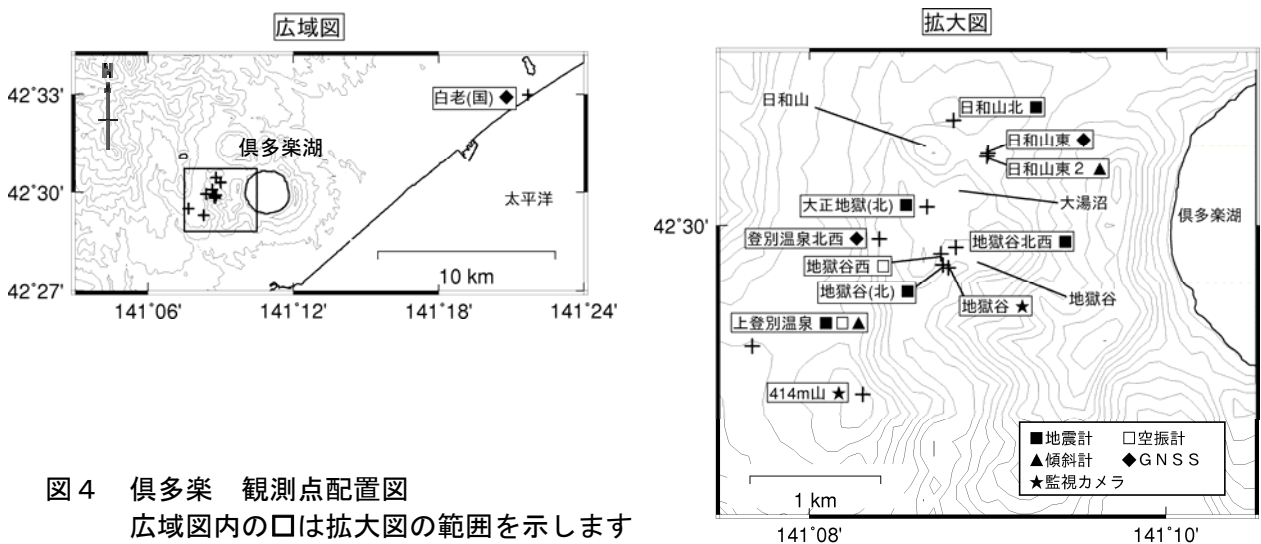


図4 倶多楽 観測点配置図
 広域図内の口は拡大図の範囲を示します
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国) : 国土地理院
 (北) : 北海道大学